

発災とともに駆けつけ、
協働で支援し、
被災者に寄り添う
～災害ボランティア・NPOの先達紹介～

各地で災害が発災した際、いち早く被災地に駆けつけ、災害ボランティアセンターや社協と連携・協働を進め、被災者への支援を行うボランティア・NPOの活動を紹介します。

第10回

災害情報支援ポータル

ホームページ：<http://saigaiinfo.jp/> Facebook：<https://www.facebook.com/saigaiinfoportal/>

かみむら たかひろ
上村 貴広 災害情報支援ポータル 代表

災害支援のNPO等を経て、支援現場でのICT支援ニーズを痛感、団体を立ち上げ伴走支援を心掛ける。浦安市社協では常設型災害ボランティアセンターの専門スタッフを経験する



災害VCのICT支援をお手伝い

災害情報支援ポータルは、災害ボランティアセンター（以下、災害VC）でのICT支援、社会福祉協議会や災害時の復旧・復興支援団体への情報発信を目的に、任意団体として2017年に立ち上がった団体です。災害VCのICT化は、スマートフォンやインターネットの普及により、現在では多くの災害VCでの活用が進んでいます。災害VCは、災害が発生すると都道府県単位と市区町村単位で立ち上がり、社協間での情報集約や、災害VCと連携するNPO等の災害支援団体への情報発信が必要になります。情報発信では、ホームページ、関係者間のメーリングリスト（以下、ML）、SNS（Facebook、Twitter、Instagram等）などさまざまなツールを活用することで、情報連携の円滑化、ボランティアの呼びかけの推進を図ることに役立ちます。しかし、こうしたツールを取り入れることは簡単ではなく、専門的な知識・ノウハウ・経験等が必要となります。こうしたICT化がうまく進むよう、被災地の災害VCに入ってICT支援（ICT活用事例の提供など活用に向けたアドバイス、技術的支援など）を行っています。

災害VCでの活動は大きく3つあります。ひとつめは、災害状況を地図やグラフで“見える化”し、活動人数の把握、支援の進捗状況の把握、ボランティア配置の

過不足等が可視化され、今後の支援の進め方の検討に役立っています。具体的には、ニーズの進捗状況や一日のボランティア者数などをグラフ化したり、災害時に株式会社ゼンリンが提供する「ゼンリン住宅地図LGWAN」等を活用して、被害状況やボランティア支援の進み具合（重要度を色別で分ける）を地図に落とし込みます。ふたつめは、ICT機器（パソコン、プリンター、モバイルルータ等）のセットアップや、使い方のレクチャー、簡易マニュアルの作成などを行っています。3つめは、災害VCの情報発信を行う特設サイトやSNS・MLの開設と運営を行い、社協職員の方々に情報発信の際のアドバイスなどを行っています。

災害VCの運営には、社協や行政、地元の関係団体・住民以外にも外部からの支援団体も関わります。ICTを活用し、それぞれの団体と支援の進め方のイメージを共有し支援のベクトルが同じ方向に進むよう災害VCのサポートを行っています。

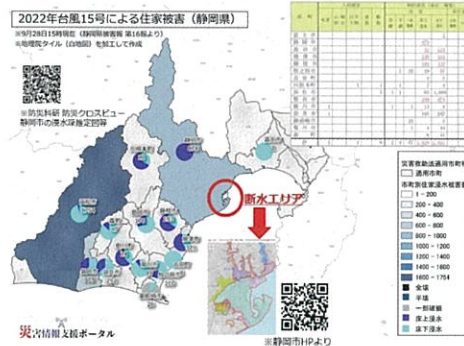
社協や関係団体への具体的支援と心掛けていること

令和4年8月豪雨では、石川県小松市の災害VCのICT支援に携わりました。フェーズ毎に必要な情報を把握・整理し情報提供を行ってきました。発災直後は被害状況が見えづらく、被害の規模感をつかむため、防災科研の浸水推定図を地図上に重ね合わせ、被害状況が把握できていないエリア情報を共有することで支援のモレを防ぎます。ボランティア支援が進むと、地図上にニーズ進捗（ボランティア支援の進捗）を落とし込み、支援の進み具合を把握しながらニーズのヌケがないよう地図情報の共有を行いました。災害VC

の閉鎖・移行判断には、地域全体の家屋復旧状況や、地図上のニーズ進捗状況を見ながら、ヌケ・モレのない被災者支援につながるよう社協職員や災害支援団体と連携を行っています。



令和元（2019）年東日本台風
茨城県太子町災害VCでの支援の様子



令和4（2022）年台風15号。静岡県内の浸水状況、エリア状況の“見える化”により、情報連携の円滑化を図ります

最近の主な被災地支援活動

令和4年台風15号（2022年）、令和4年8月3日からの大雨（2022年）、令和元年東日本台風（2019年）、西日本豪雨（2018年）、島根県西部地震（2018年）